

多剤耐性緑膿菌(MDRP)による 院内感染症発生患者数

概要	緑膿菌は、環境中に広く分布する細菌の一種です。本菌が傷口に感染(創傷感染)したときに、しばしば緑色の膿が見られることから名付けられました。 多剤耐性緑膿菌はいくつかの抗菌薬が効かなくなった緑膿菌のことです。 ここでは 1 年間に検出された多剤耐性緑膿菌のうち多剤耐性緑膿菌による感染症を発症した患者数を算出しています。 「多剤耐性緑膿菌による院内感染症発生患者数」は院内感染対策の実施とその効果を示す指標として用いられ、発生数を経時的変化で報告することにより院内感染対策の効果を確認することができます。																												
実績	発生数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>発生数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2008年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2009年</td><td>1</td></tr> <tr><td>2010年</td><td>2</td></tr> <tr><td>2011年</td><td>1</td></tr> <tr><td>2012年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2013年</td><td>1</td></tr> <tr><td>2014年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2015年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2016年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2017年</td><td>1</td></tr> <tr><td>2018年</td><td>0</td></tr> <tr><td>2019年</td><td>1</td></tr> <tr><td>2020年</td><td>1</td></tr> </tbody> </table> 軸ラベル ■ 発生数 国立大学病院平均 - - - 当院平均	年	発生数	2008年	0	2009年	1	2010年	2	2011年	1	2012年	0	2013年	1	2014年	0	2015年	0	2016年	0	2017年	1	2018年	0	2019年	1	2020年	1
年	発生数																												
2008年	0																												
2009年	1																												
2010年	2																												
2011年	1																												
2012年	0																												
2013年	1																												
2014年	0																												
2015年	0																												
2016年	0																												
2017年	1																												
2018年	0																												
2019年	1																												
2020年	1																												
共有/フィードバック方法	感染対策委員会等で情報共有しています。																												
解説	2018 年度国立大学病院平均値 0.7 人 当院の過去 13 年間の平均発生患者数 0.6 人 国公大学病院の平均値と同等であるため、感染対策が十分に実施されていると評価できます。																												

◆ 担当部署：感染制御部